国連機関に勤務して

藤田慶喜
国連工業開発機関

新日鉄から，国連工業開発機関（United Nations Industrial Development Organization）に移籍してからはや 3 年半がたった．

この国連工業開発機関（略称 UNIDO）は 1986 年に国連の第 16 番目の専門機関として独立し，発展途上国の工業化を推進する為の援助，協力を行う機関である．

その為に，技術協力，工業投資，調査研究などを積極的に実施している．

本部はウィーンにあり，約 1 300 名（うち専門職約 460 名）の従業員，約 30 ヶ所の海外事務所，約 10 ヶ所の投資連絡事務所などの拠点をもっている．

技術協力は，直接技術指導のほか，工業政策の企画，立案に対する助言，研修，専門家会議を含んでいる．また契約管理，技術移転など政府間，企業間を結びつける所謂，触媒的役割なども行っている．国連加盟国の技術情報を集め，広める工業技術情報バンクを保有している．

こちらに来て，Metallurgical Branch の連中と仕事をしてみると，日本にいた時には聞いたことも無い名前の鉄鋼会社，公社が沢山あるのに驚く．これらの多くは技術援助を受けようにも，その受け皿や，資金がない為に UNDP（国連開発計画）や地域の資金拠出機関，また先進国の拠出をうまく組み合わせて資金を作り出し，UNIDO が実行に当たっている．このような国，企業が国連の援助を待っている．（第 6 回，鉄鋼国際会議資料於　名古屋，拙著 Vol 15，p. 252～259 参照）

どの会議に出ても，日本の技術，管理は素晴らしい．しかし自分の所では実行ができないという話の壁にぶつかる．人，資金のこともあるが，技術そのものが，非常に専門化，特殊化，高級化されていて，一般的には使いにくい状態になっていることも大きな要素になってきている．水がきたない，電力の質が悪い，部品供給がうまくいかない，運搬手段が貧弱という所では，それ以前にやっておかねばならない事が有るからである．環境機器にしても，もう少し効率が低くてもよいから安いものをという希望が圧倒的に多い．どうも Adaptation（適用化，一般化）研究が必要のようだ．その為に日本の技術をブラジル，韓国，インドあたりに一度おろし，それから技術再移転をはかるという考えもあり得る気がする．

日本の企業の実態をみると，合理化によりスリム化して人が不足している．スケジュールがつまっていて，フレキシブルに対応できない，タリフが高い専門家集団になり過ぎている等々の理由により，国連のフィールド関係の仕事は，どうも定年に近い方か，定年後もお元気なシルバークラスの方の出番がかなりありそうな気がする．言葉の点でハンディキャップはあるものの，長い間に身につけた勘，こつ，が残っている．スパーンが広い，応用動作がうまい，コスト意識が強い，精神的にタフ，教えるのがうまい，などの理由による．また UNIDO では，サバチカル制度を利用して，大学教授をコンサルタントに雇って仕事をして頂いている．有名な Prof. Sven Eketorp ほか，鉄鋼業界の先生も UNIDO ロースターに登録されている．

よくここでは日本人論が出てくる．冗談で日本人は十の内容を議論するのに，ラテンの人は六ぐらい理解したら話し出すのに，日本人は十五分っても議論に入って来ない．奥様方の国連語学教室で日本人が居ると進歩がおそくなるというクレームで試験をやったら，上位は全部日本人だったという話がある．なかなか慎重すぎて中に入れない．これは国や会社についてもよく言われる．そのかわり一旦決まったことは余程のことがない限り変えない．世界のトップクラスの集まる Women's Conference に参加した折，一週間泊まりこんで環境問題を議論，最終日に，ある代表が「ゴミをカプセルで宇宙に運んだら」という提案が出た．日本人だけなら絶対にこんな話は出てこない．本人が真面目にそう考えているからとみんなで時間をかけて議論する．この点は外国人の方がはるかに寛容で，よく反省をさせられる．やや異端，片寄った議論のスクリーニングのやり方が完全に違う．Debate は一向に人格を傷つけないのだから．

しかし日本人の勤勉さ，誠実さ，正確さ，判断の公平さは衆人の認める所．もっと国際舞台で発言をして欲しいと特に中進国から言われる．本当に世界から期待されていることを誇りに思っていいと思う．

アジアの発展と中南米，アフリカ，中東，東欧の経済発展とが比較，議論される．日本がアジアの工業発展の牽引車となっているのがよく理解されている．それだけに他の地域からの期待も大きい．いつアジアからシフト出来るか，またアジアでの経験をどうやって他の地域で生かすか，大きな課題である．他の地域と比べるとアジアの人々は比較的他人の言う事をよく聞いてくれる．同じセミナー運用でも，中南米とアジアとではやりとりを変えてみるケースもある．距離の差をどう克服するか，人の性格の違いをどう理解するか，工夫が必要と思う．

日本に居た頃，鉄鋼業は基幹産業と言われていた．こちらに来てもその思いは変わらない．何故なら小職の部は鉄鋼以外の産業の技術情報，契約管理，技術政策，標準化，品質管理，環境エネルギー等も取り扱っているがこれまでの鉄鋼の知識経験が随分役に立っている．最近では，Privatization，Military Conversion 等もとりこんでいる．Business Diversification，Incubator 等 80 年台の日本鉄鋼業の経験が生きてくる．このような意味で

鉄鋼業は依然として基幹産業と言いたい．

国連機関は入る前と入った後ではそのイメージががらっと変わる．国連憲章にある理想は理想としてあるが，内は人間臭さのかたまり，ドロドロしているのが実情である．地域・国別バランス，コンセンサス議決，ペーパー偏重，階級的構造，予算の硬直性，人事ローテーションの壁，極端な縦割り組織，先進国と途上国間のあつれき，ポスト争い，細かい義務細則等，民間から来た人間には驚ろく事が多い．しかし北南協力から南南協力，民間重視の援助，婦人への産業能力付与，多数国間協力，インターン制度，民間活力の起用など新しい動きも出てきている．

第二次世界大戦を契機に出来た国連，いくつかの専門機関の誕生もひとつの曲がり角に来ている．依然として約四分の一を米国が払い続けなければならないこと，平和維持機能の他，何を優先すべきか，慢性的財政危機，未整理のままの東欧諸国の費用負担問題など，課題が山積している．

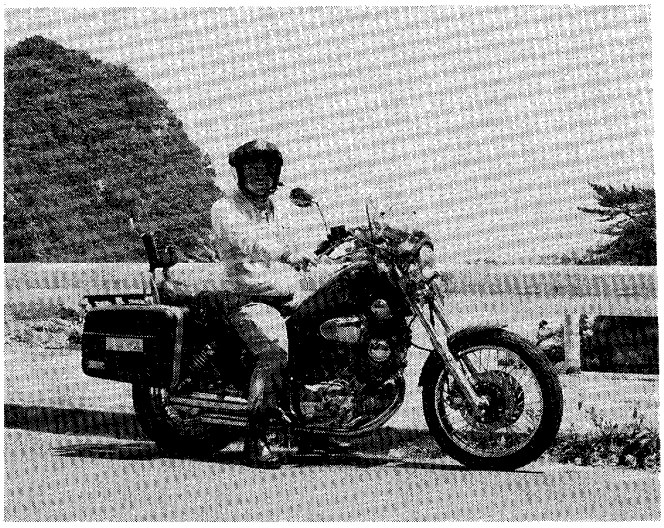
国連機関に働く者として，日本鉄鋼協会会員の皆様に，現場の声をお届けいたします．

バイクの楽しさ

大竹一友
豊橋技術科学大学教授

バイクの重さはスピードで変わる．それを楽しみながら蔵王で開催された本協会の鉄鋼工学セミナーや，仙台での化学工学協会（現在：化学工学会）の年会への参加，その後でリアス式海岸を見に盛岡まで足を延ばしたり，豊橋のバイク仲間との遠乗りに出掛けて来た．紀伊半島や能登半島一周などのグルメツーリング，鬼怒川と万座への温泉めぐり，雪の白馬岳を見ながら春の山菜と温泉を楽しむよくばりツーリング，獲れたての餅鰹を目当ての熊野への新緑ツーリングなど，当地のいろいろな職業の人達と，すっかり板についた東三河弁で楽しくやりとりしながら盛り沢山の企画を満喫できる充実感は，東京に住んでいた頃には予想だにしなかったことである．

バイクの楽しさは何と言っても，全視野の景色を独り占めにしながら，空気の濃淡と風の間をすり抜けて行くことにある．自然の営みと，風の法則を肌で感じながら，今の自分に最も無理が無い走りの条件を，全五感を研ぎ澄ましてとっさに判断し，バイクを思うように操って行く快感は，これ以外の陸上の乗り物に探すのは無理だろう．正に現代の乗馬，アイアンホースライディングである．山桜満開のワインディングロードに，ギヤをシフトダウンしてエンジンの出力でより強く地面をつかみ，車体をバンクさせてその重さを感じながらカーブに突っ込んで行く．コーナーをかわす頃からさらにスロットルを開くとエンジンは吹き上がり，加速と共に車体の重さが抜けてすっと起き上がる．すかさず次の逆カーブへといどんで行く．この感覚が楽しくて，日曜日など街の友人から電話がかかってくると，中津川や木曽福島あたりまで奥三河の山を抜けて昼のそば食いにでかける。車では出来ないぜい沢な自由さである。途中で山合の小さな菓子屋で香りの良い新茶をすすりながら，創業以来300 年間変わることのない作り方を堅持してきたという昔風のカステイラに舌鼓を打つのも正に忙中暇ありの嬉しい一時である．そばを食べた後で，時として急に温泉につかろうかなどという提案が出て，その近くの昼神までスロットル全開で飛ばしたり，下呂温泉に左折したりすることもしばしばである．

バイクツーリングの最高の季節は新緑と，紅葉の頃だ．昇りの山道一面に咲き誇る桜や，紅葉のトンネルの中を走る喜びは筆舌に尽くせぬものがある．夏よりは冬の方がまだ救われる．着込めば何とか寒さには勝てるが，万一のことを考えて夏でも長袖のブルゾンを着るため，赤信号で停められる時の路面からの照り映えと空冷エンジンの熱気で，背中に汗が流れる．目的地に着いたとき真っ先にやる冷えたビールのファーストショットを思って青信号の後の風の爽快さに期待を寄せる．

バイクでは走っている間，仲間との話しが出来ない．その代わり，相手の気持ちを思いながらそれぞれに自分を律していくところに友情を感じる．昼飯時など互いの思い入れの違いに花を咲かすのも，バイクツーリングならではの楽しさである．とはいえ 15 人以上の大パーティーで行く時など，2～3 人が曲がり場所を間違えてどこかへ消えてしまうこともある．そのため少なくとも前後の連絡用にと携帯用のアマチュア無線機を積み，出来るだけ遠くへ電波を飛ばせるようにアンテナも付け